

## 実践報告

## 札幌市立西岡北小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究」

- アイヌ文化について正しい知識を得て理解を深めるとともに、北海道の先住民であるアイヌの社会や文化を尊重する態度を養う。

### (2) 実践の内容

【実践①】札幌大学ウレシパクラブとの交流

#### ○ ねらい

アイヌ文化について学習することを通して、アイヌ民族の社会や文化を理解し、尊重する態度を養う。

#### ○ 学習内容

##### ＜ウレシパクラブの紹介＞

最初に「イランカラプテ」（こんにちは）と、アイヌ語での挨拶の仕方を教えてくれて、温かい雰囲気での交流がスタートした。ウレシパクラブは、「アイヌの学生」「アイヌの社会や文化に関心をもつ学生」「先生や地域の人」で構成されておりアイヌについて学んでいることや活動内容を、スクリーンを使って画像を見せながら4年生の子どもたちにも分かりやすく説明してくれた。



##### ＜アイヌ語を覚えよう！＞

事前にデータを送っていただいた40枚のカルタの言葉で発音練習をした。ウレシパクラブの方が先に発音してくださり、真似をした。子どもたちからは「思っていた発音と違った。」と声が上がっていた。

カルタの言葉の発音や意味を確認した後にカルタ遊びをした。事前に知らされていたこともあって、子どもたちは言葉をよく理解することができており、夢中になってカルタ遊びに取り組んでいた。読み手になってくれた学生が驚くほど熱が入っていた。



カルタ遊びの後は、おさらいとしてアイヌ語カルタクイズをした。アイヌの人々の暮らしについてや地名、動物の名前など、現在の私たちの生活にも深い関わりのあることがクイズとして出題された。昨年度、問題が易しすぎて答えがすぐに分かってしまったという反省が出ていたため、三択の言葉を工夫し、楽しく活動することができた。

##### ＜アイヌの楽器・踊り＞

トンコリとムックリの演奏とエムシリムセ（悪魔払いの刀の舞）、チャッピーヤク（雨ツバメの踊り）を披露していただいた。トンコリという弦楽器を初めて見た子どもたちは、熱心に演奏を聴き、きれいな音色を楽しんでいた。また、ムックリの独特な演奏方法と音色に驚き、引き込まれていた。エムシリムセは、歌と迫力あるかけ声に合わせて舞い、時折刀がぶつかり合う音に思わず息を飲む姿が見られた。その後、チャッピーヤクという

雨ツバメの踊りを見せてもらい、踊り方の説明を受けて学生と一緒に歌ったり体を動かしたりしながら楽しく踊った。



### <質問タイム>

子どもたちは、授業では分からなかったことや調べることができなかったことを質問し、アツシ（木綿衣）には地域や時代によって違い四種類あることや北海道アイヌ・樺太アイヌ・千島アイヌがいて舟で行き来し交易していたこと、アイヌ語からできた言葉がたくさんあるが逆のものもあることなどを知ることができた。

まだまだ聞きたいことがある様子であったが、アイヌの文化について理解を深めることができた。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ お互いにとって有意義な交流とするために、担当者同士が連絡を取り合っ、日程や活動内容等について話し合い、当日を迎えることができた。
- ・ ウレシパクラブのみなさんが来てくれるということで単元を通して子どもたちの意欲が高まり、熱心に学習に取り組んだ。交流当日、実際に間近で見られる・体験することができるのは、他の何にも代え難い。



#### ② 課題

- ・ 先方も忙しく、何とか日程を調整し準備を進めてくれているので交流を複数回もつことがなかなか難しい。クラブの方全員でなくてもよいので単元の導入や調べ活動の段階で来ていただくなどの工夫をしていきたい。
- ・ 担任教師の関わりや支援を工夫していきたいと考えていたが、ほぼ全て進めていただいた。授業での学習を改善し、より効果的な取組となるようにすべきであると考え。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 自分たちが学習してきたアイヌの文化について、実際に体験できるのが非常に効果的である。
- ・ 昨年度から近隣の学校でもウレシパクラブとの交流を始めている。互いに情報交換し、連携を広げることができるのではないかと考える。